

令和4年度 住まい環境整備モデル事業
【課題設定型・事業者提案型】
提案内容の概要

事業名称：障がい者と地域の高齢者等交流を促進し、保護者・介護者に一時のレスパイト・タイムを提供する事業

代表提案者：社会福祉法人 和光福祉会

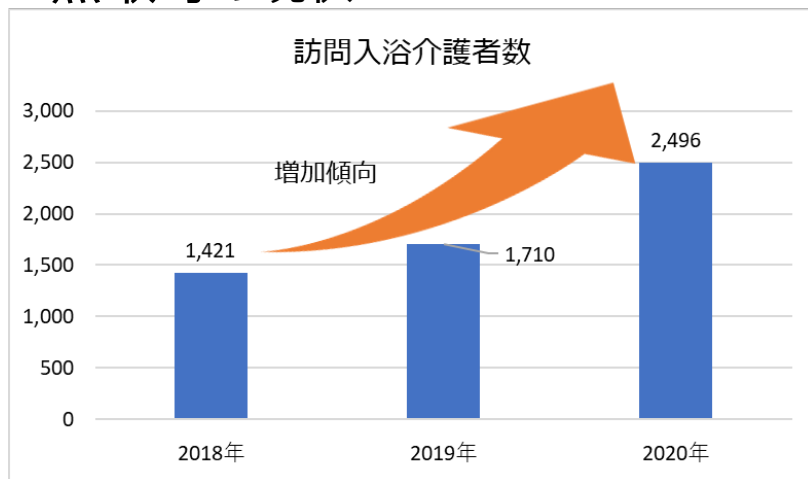
1. これまでの取組



7つの事業を通じて、学校・行政との綿密な連携により地域の障がい者のより良い暮らしを支援！！

2. 現状・問題意識

熊取町の現状



主障がいの部位別・年齢別身体障がい者手帳所持者数

(単位：人)

	総数	視覚障がい	聴覚・平衡機能障がい	肢体不自由	音声・言語・そしゃく機能障がい	内部障がい
0～17歳	24	1	6	11	0	6
18歳以上	1,640	74	130	968	21	447
合計	1,664	75	136	979	21	453
構成比	100%	4.50%	8.20%	58.80%	1.30%	27.20%

現状

- ・ 肢体不自由者である医療的ケア児のご家族の身体的・精神的負担が大きい。
- ・ 特に入浴は、一定の広さ、設備がないと家庭では対応しにくい。
- ・ 近隣には医療的ケア児を受け入れられる福祉型短期入所施設がない。
- ・ 自宅では介護できず、他の地域にされて転出されてしまう。
- ・ 高年齢の障がい者の介護は家庭では対応しにくい。
- ・ 高年齢者の介護は専門施設への入所が必要になる。



2. 現状・問題意識

【課題】

- ・ 肢体不自由者である医療的ケア児を介護するご家族も安心できる施設の設置や仕組みづくり。
- ・ 家庭では対応しにくい入浴施設の設置。
- ・ 住み慣れた地域で長く介護ができる環境づくり。
- ・ 地域の障がい者・高齢者の交流による相互理解ができる環境づくり。

【課題解決策】

- ・ 地元で、家庭では対応しにくい肢体不自由者である医療的ケア児が利用できる入浴施設を作る。家族の負担を減らす設備とスタッフを用意。
- ・ あわせて、障がい者と地域の人ができる空間を設置。障がい者、家族、地域の住民の交流を行い、障がい者家庭への理解を促進。
- ・ それにより障がい者をできるだけ長く、家庭で介護できる環境を実現。
- ・ 医療的ケア児が施設を利用する間、家族は「ほっとする時間・レスパイトタイム」を持って、こころに余裕が生まれる。

3. 提案内容

- ①熊取療育園の1階の大浴場の改修工事を行い、「みんなのお風呂」として地域の皆様に無償若しくは低料金で開放する。
- ②1階の多目的ホールを「みんなのリビング」とし、当入所者の方以外でも医療的ケア児とそのご家族と一緒にくつろげる場を提供。
- ③2階、3階の浴室等は1階が開放されるので、入所者の快適な住まいに改装。



1F 平面図 (改修後)



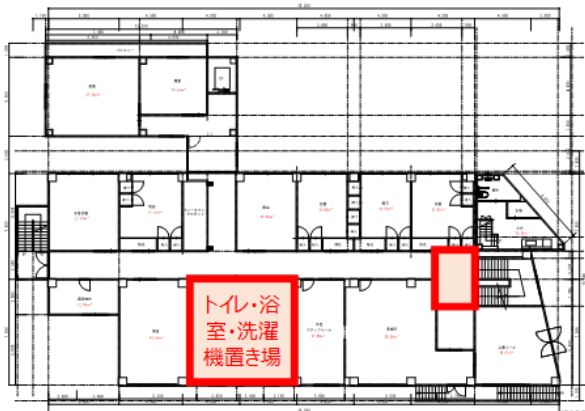
1F 大浴場



1F 多目的ホール



3F 洗濯場



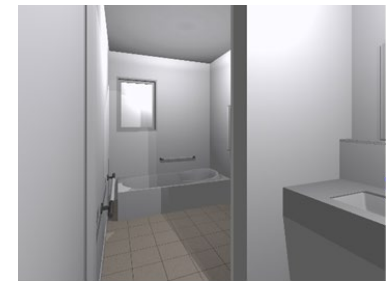
2F/3F 平面図 (改修後)



脱衣所 (大浴場)



多目的ホール



浴室

4. 期待される効果

障害等のレベルが専門家の目にとまり、その人に必要な専門サービス、医療サービスの提案につながる。

世間の障がい者へイメージ・理解を正しく持ってもらうことで障がい者の差別をなくす。

医療的ケア児の保護者・介護者のリフレッシュに貢献し、疲れからくるトラブルを低減。

日本知的障害者福祉協会を通じて当地域のみならず全国へ発展する可能性が高い。

住み慣れた地域で互いに支え合いながら、生活できる地域共生社会の実現。

家庭にこもりがちな地域の障がい者・高齢者が外出する機会をあたえ、生き生きとした生活感が得られる。

パンの販売やイベント、プログラムの展開により、地域の障がい者、高齢者、子どもが交流でき、生活への楽しみを創出。

子どもを通じて地域との関係が深くなり、障がい者・高齢者の孤立化を防ぐ。



5. 検証方法

実施項目	技術検証 内容	技術検証のための調査方法
みんなのリビング・みんなのお風呂の検証	参加者の期待するプログラムと支援者・家族の望むレスパイトできるサービス内容	利用者・支援者・家族の満足度調査 ①アンケート調査を実施し交流スペースの設備や課題を定量・定性的に調査。 ②半年ごとに実施し、変化を確認する。 評価の理由を収集することで伸ばす点、改善する点を把握することの検証。
関連外部サービスとの連携可能性の検証	今後提携し、提携する外部サービスの内容・価格の設定	支援者・家族への意向調査 ①希望意向のヒアリング調査 ②アンケート調査:事業者からの事業紹介パンフレットなどに対する意見と希望を確認。 以上より外部サービスの内容・金額が実現可能かを検証する。